

第2章 食と健康を取り巻く情勢の変化

1 社会経済状況

食は、日々変わりゆく私たちの社会と密接に関係しており、特に今般の新型コロナウイルス感染症の世界的な感染拡大により、新しい生活様式への対応が求められるなど社会情勢は大きく変化しています。

(1) 人口の推移、家族形態の多様化

○ 兵庫県の人口は、5,465,002人（令和2年）で560万人を超えた平成21年を頂点に減少傾向にあり、今後も減少が続くと推計されます（図1）。

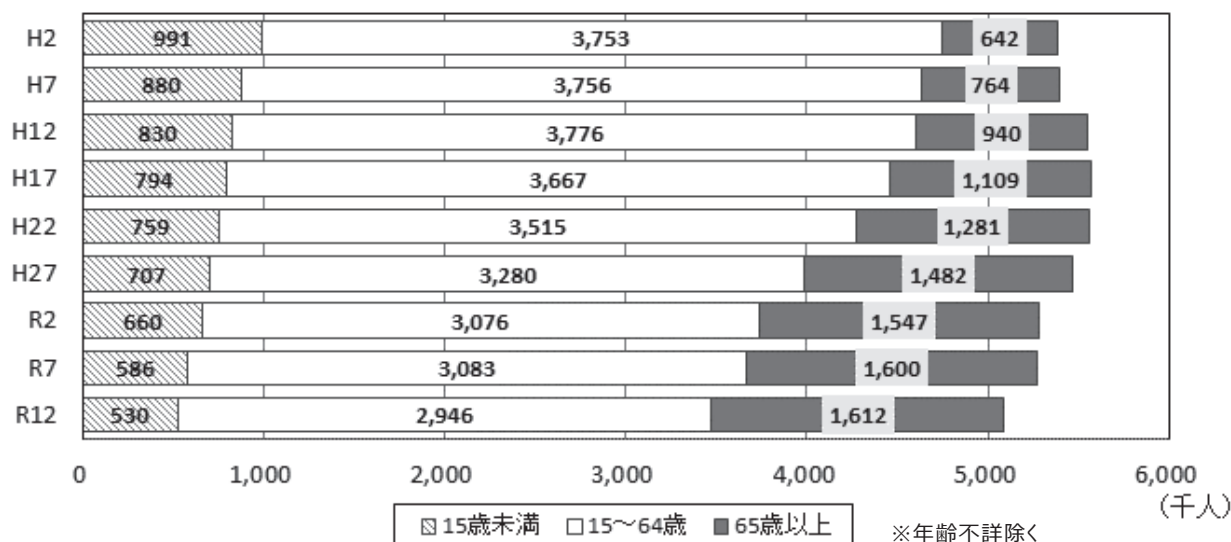
また、現役世代（15～64歳の生産年齢人口）は減少する一方で、高齢化が進展し令和7年（2025年）には、65歳以上人口の割合が30.2%になると推計されています。

○ 世帯総数は2,398,865世帯（令和2年）で前回調査に比べ増加し、単独世帯、高齢者、ひとり親世帯が増加しています（図2、表1）。

○ 国民生活基礎調査によると、2018（平成30）年の我が国の「相対的貧困率」は15.4%、「子どもの貧困率」は13.5%となっています。「子どもがいる現役世帯」の世帯員における貧困率は12.6%で、そのうち「大人が一人」の世帯員では48.1%、「大人が二人以上」の世帯員では10.7%です。また、主な先進国で国際比較すると、我が国は「子どもがいる現役世帯のうち、一人親世帯の貧困率」が高い状況にあります。

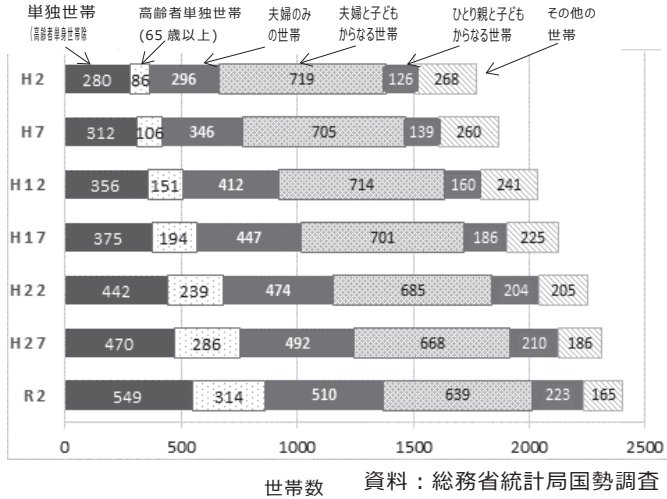
○ 兵庫県の高齢化率は29.0%（令和3年2月）ですが、市町によって24.0%～43.3%と大きく異なるため、地域の実情を踏まえ、調理や買い物が困難な高齢者等向けの配食に関する情報提供を行う取り組みなど、介護予防の観点からの食育の推進にも注視することが必要です。

（図1）兵庫県将来推計人口（年齢区分別）



資料：総務省統計局国勢調査、国立社会保障・人口問題研究所将来推計

(図2) 兵庫県家族類型別世帯数の推移

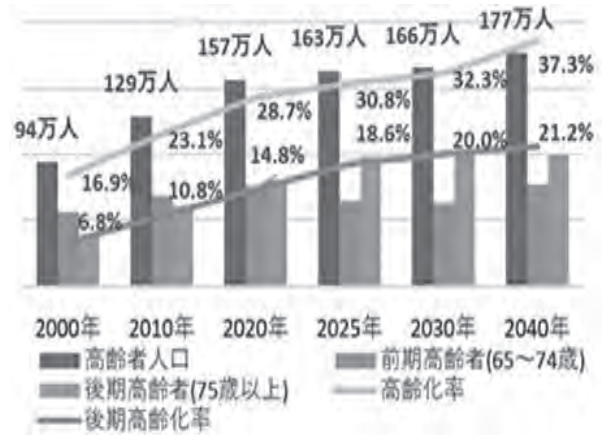


(表1) 高齢者(65歳以上)がいる世帯

	高齢者単身世帯	夫婦のみの世帯	夫婦と子どもからなる世帯	ひとり親と子どもからなる世帯	その他の世帯	総数
H12	151,276	188,656	66,398	55,745	341,230	803,305
うち高齢者のみ	151,276	132,888	51	2,074	6,185	292,474
H17	194,292	226,501	87,596	69,329	309,930	887,648
うち高齢者のみ	194,292	168,439	48	2,545	7,611	372,935
H22	239,227	263,520	110,779	84,219	274,650	972,395
うち高齢者のみ	239,227	206,268	88	3,394	8,804	457,781
H27	286,374	307,446	133,896	100,881	146,151	974,748
うち高齢者のみ	286,374	251,689	273	6,096	11,771	556,203
R2	313,735	324,308	134,197	111,854	120,052	1,004,146
うち高齢者のみ	313,735	276,364	351	7,527	13,899	611,876

資料：総務省統計局国勢調査

(図3) 兵庫県の高齢者人口の将来推計



□ 兵庫県の高齢者人口の将来推計

- 65歳以上人口：20.3万人増加(↑)(2020年→2040年)
- 65~74歳人口：5.7千人増加(↑)(2020年→2040年)
- 75歳以上人口：19.7万人増加(↑)(2020年→2040年)

※高齢者数は2040年頃ピーク。前期高齢者は2015年をピークに減少し2030年頃以降再び増加。後期高齢者は2025年頃にかけて大幅増加するものの2030年頃からは減少に転じる。

○ 要介護(支援)認定者数の推移

(2020年) 約32万人 → (2040年) 約43万1千人 (34.7%増加)

○ 認知症高齢者数(認知症の有病者数)の推移

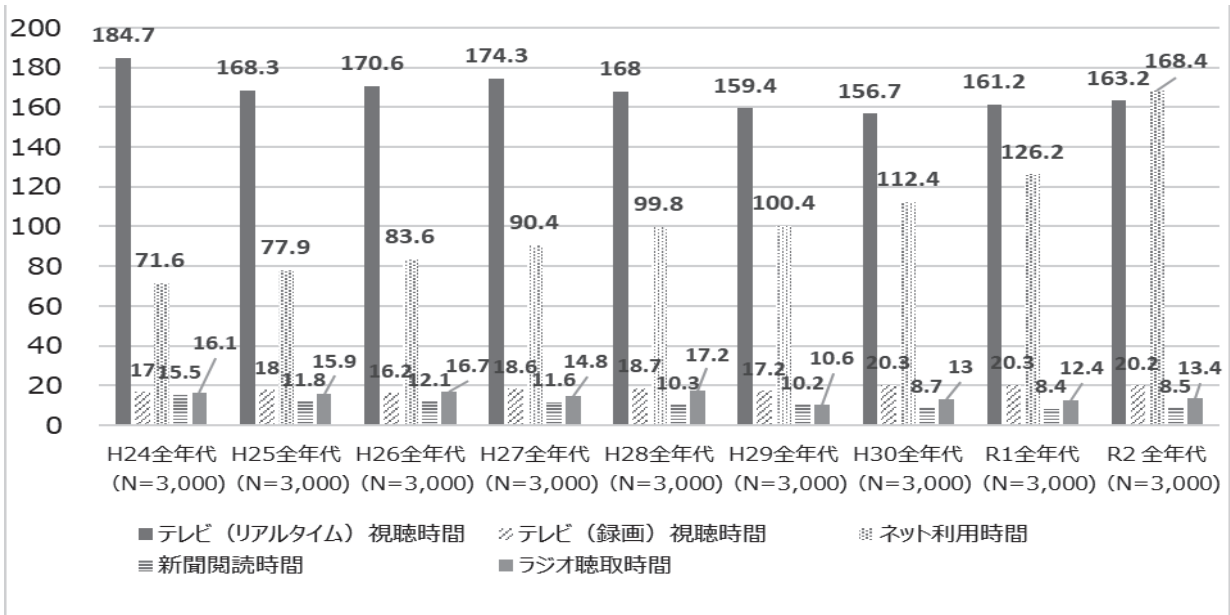
(2020年) 約27~29万人 → (2040年) 約38~45万人

(2) ソーシャルメディアの普及と「新しい生活様式」への移行

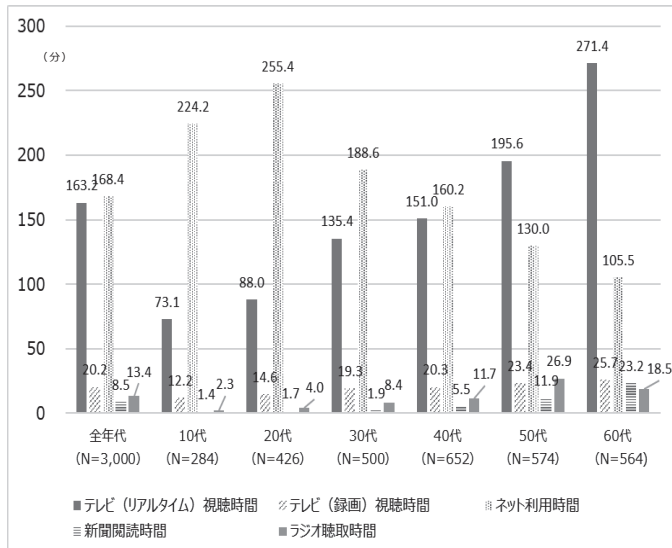
- 主なメディアの平均利用時間を経年で見ると、全年代では、平日、休日ともに「テレビ(リアルタイム)視聴」及び「インターネット利用」が長い傾向が継続しており、令和2年度は、平日の「インターネット利用の平均利用時間」が「テレビ(リアルタイム)視聴の平均利用時間」を初めて超過しました(図4、図5)。
- モバイル機器による「インターネット平均利用時間」を見ると、若年層と高年層では、利用時間に大きな開きが見られるものの、いずれの年齢層においても、利用時間はおおむね増加傾向にあり、特に、10代及び20代の平均利用時間が長くなっています。
- 令和2年度のモバイル機器等の利用率は、全年代では「スマートフォン」の利用率が92.7%であり、平成24年度の調査開始以降、一貫して増加しています。また、モバイル機器によるインターネット利用において、ソーシャルメディア、動画サイトの利用時間は大幅に増加しています(図6)。
- 新型コロナウイルス感染拡大により、新しい生活様式への移行が求められています。新しい生活様式では、家族と過ごす時間が増える一方で、地域での共食などが難しい状況となっています。デジタル化の推進、暮らし方や働き方の変化に応じた食育を推進していく必要があります(図7)。

(分)

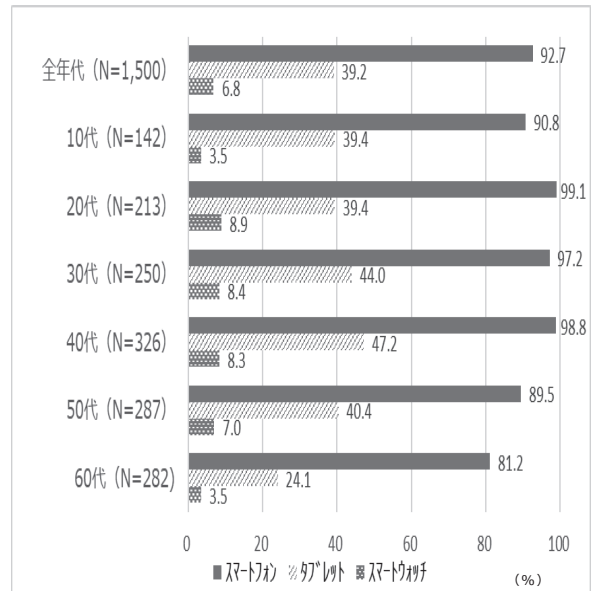
(図4) 平日 主なメディアの平均利用時間 (全年代、経年)



(図5) 平日 主なメディアの平均利用時間 (令和2年度)

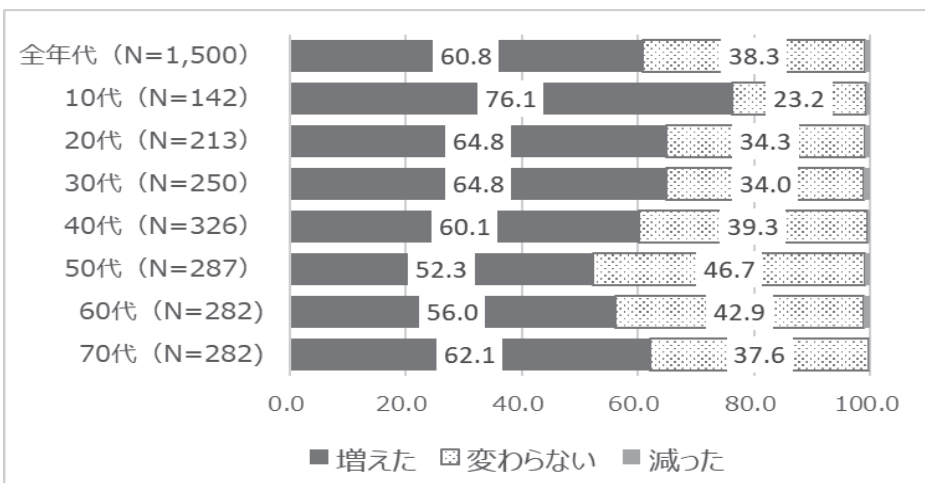


(図6) モバイル機器等の利用率 (全年代・年代別、令和2年度)



- 「インターネット利用」の平均利用時間が、平日、休日ともに各年代で増加。
- 機器別の利用率については、「スマートフォン」の利用率が最も高い。

(図7) 新型コロナウイルス感染症感染拡大に伴う在宅時間の変化等



資料：令和2年度情報通信メディアの利用時間と情報行動に関する調査報告書
 (令和3年8月
 総務省情報通信政策研究所)

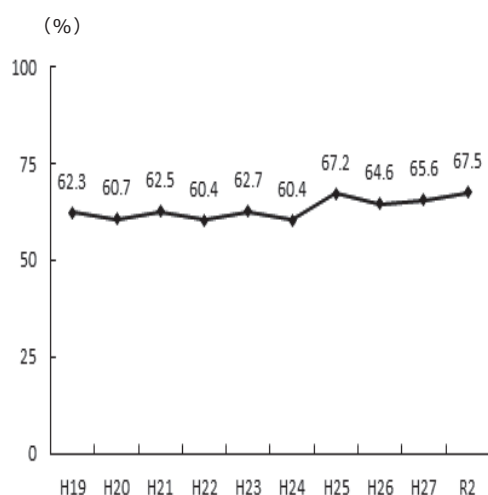
2 健康と食生活

私たち人間が生きていくために食は欠かせません。また、健全な食生活を日々実践し、おいしく食べることは、日々の生活に喜びや楽しみを与え、健康で心豊かな暮らしの実現に大きく寄与します。しかし、社会環境が大きく変化する中で、食に関する価値観やライフスタイル等の多様化が進み、世帯構造の変化や様々な生活状況により、健全な食生活を実践することが困難な場面も増えています。

(1) 県民の健康状態

- 心身ともに健康であると感じている県民は 67.5% です（図 8）。
- 「栄養・食生活」が「健康を維持するために大切な要素」と考えている県民は 80.1% であり、男性（74.2%）より女性（85.9%）で高く、年代が上がるにつれ、その割合は高くなっています（表 2）。

（図 8）心身ともに健康であると感じている人



資料：県民モニター調査（R2）

（表 2）健康を維持するために大切な要素（2つまで選択）

区分	① 栄養・食生活	② 運動・身体活動	③ 休養・余暇・睡眠	④ 健康診断の受診	⑤ 歯と口の健康づくり
合計	80.1%	69.4%	62.6%	60.5%	50.4%
男性	74.2%	73.8%	57.7%	63.4%	49.8%
女性	85.9%	65.1%	67.3%	57.7%	51.1%
20代	63.3%	46.9%	75.5%	42.9%	40.8%
30代	77.3%	62.5%	64.8%	43.8%	42.2%
40代	77.8%	58.5%	57.4%	53.2%	40.8%
50代	79.1%	60.6%	63.9%	62.2%	46.7%
60代	80.4%	75.0%	62.2%	66.6%	52.3%
70代	84.4%	83.1%	62.4%	63.7%	59.9%
80歳以上	87.3%	84.5%	66.2%	73.2%	69.0%

資料：県民モニター調査（R2）

- 兵庫県の平均寿命は男性 81.06 歳、女性 87.15 歳（平成 27 年）で全国平均とほぼ同水準であり、健康寿命は男性 79.62 歳、女性 83.96 歳であり、平均寿命と健康寿命の差は、男性 1.44 歳、女性 3.19 歳となっています（表 3）。
- 圏域間の健康寿命の差は男性で最大 2.24 年、女性で最大 1.11 年となっています（表 4）。

【兵庫県における健康寿命の算定】

本県では「健康寿命」を、日常生活動作が自立している状態を「健康」としており、介護保険上の要介護 1 以下の割合から算出しています。（市町ごとの要介護認定者数にはバラツキがあることから、H22 は H21～23 年、H27 は H26～28 年の 3 カ年平均を使用して算定）

(表3) 兵庫県の健康寿命の状況

【全県】

兵庫県	平均寿命①		健康寿命②		差(①-②)	
	男性	女性	男性	女性	男性	女性
H27 a	81.06	87.15	79.62	83.96	1.44	3.19
H22 b	79.89	86.39	78.47	83.19	1.42	3.20
伸び(a-b)	1.17	0.76	1.15	0.77	資料:兵庫県健康づくり推進実施計画(H30)	

健康寿命は平均寿命の伸びに伴い延伸しているが、男性は目標(1年延伸)を達成し(1.15年延伸)したが、女性は目標には達していない(0.77年延伸)。また、健康寿命と平均寿命の差はH22年とほぼ変わらない。

(表4) 【圏域別】

	男性		女性			男性		女性	
		全県との差		全県との差			全県との差		全県との差
神戸	79.62	0.00	83.93	△0.03	中播磨	78.84	△0.78	83.55	△0.41
阪神南	79.63	0.01	83.93	△0.03	西播磨	78.85	△0.77	83.49	△0.47
阪神北	81.03	1.41	84.60	0.64	但馬	78.96	△0.66	84.51	0.55
東播磨	79.43	△0.19	83.74	△0.22	丹波	79.22	△0.40	84.20	0.24
北播磨	79.85	0.23	84.13	0.17	淡路	78.79	△0.83	83.87	△0.09

資料:兵庫県健康づくり推進実施計画(H30)

圏域間の健康寿命の差は男性で最大2.24年(阪神北81.03、淡路78.79)、女性で最大1.11年(阪神北84.60、西播磨83.49)である。

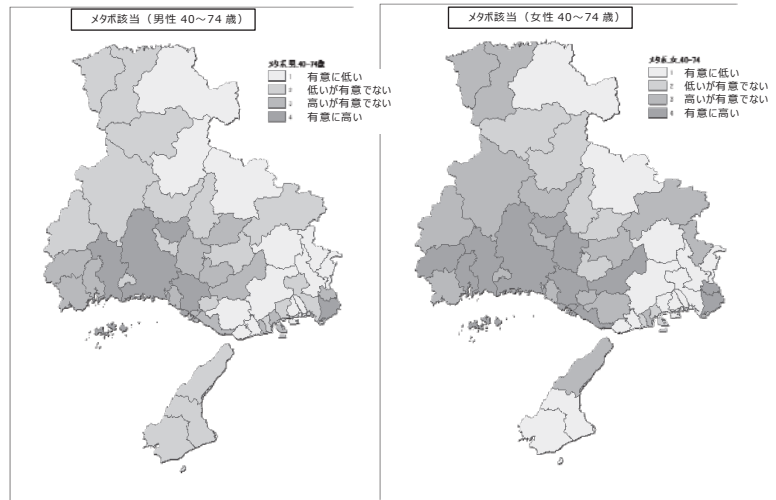
- 死因別死亡割合では、悪性新生物、心疾患、老衰、脳血管疾患、肺炎の順となっており、生活習慣病が50.7%を占めています。また、老衰が3位となっています(表5)。
- 特定健診受診者のうち、働き盛り世代のメタボリックシンドローム該当者の割合は、年齢が上がるるとともに高くなっています。
市町におけるひょうご健康づくり支援システムの活用により、地域の実情を踏まえた効果的・効率的な健康施策の推進を目指しています(図9)。

(表5) 死因別死亡割合(兵庫県)

順位	死因	R元
1	悪性新生物	28.5%
2	心疾患	15.0%
3	老衰	8.2%
4	脳血管疾患	7.2%
5	肺炎	6.4%
6	不慮の事故	3.0%
7	誤嚥性肺炎	2.9%
8	腎不全	2.0%
9	血管性の認知症	1.7%
10	慢性閉塞性肺疾患	1.6%
-	その他	23.5%

資料:厚生労働省 人口動態統計(R元)

(図9) 特定健診受診者のメタボリックシンドローム該当者割合



資料:平成25年度特定健診データ解析報告書(兵庫県、平成29年3月発行)

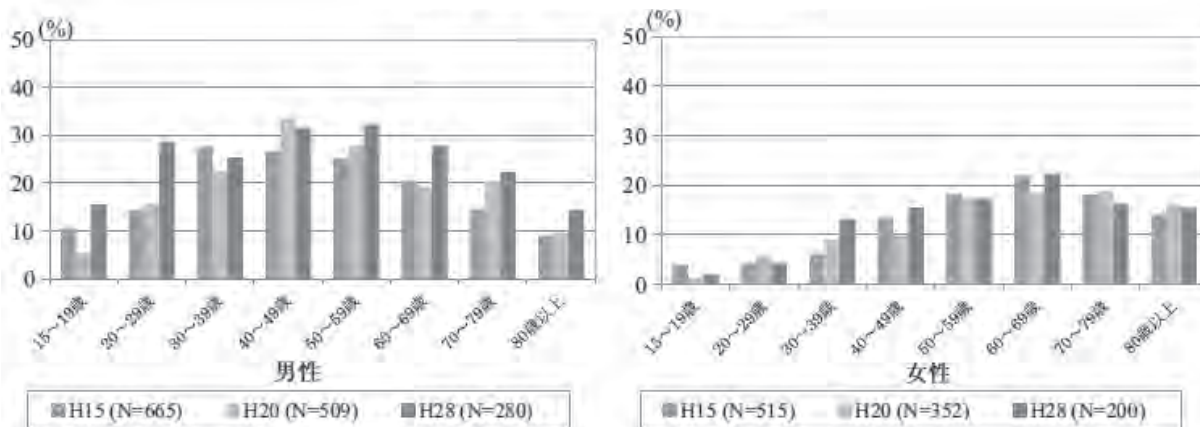
- 男女ともに肥満状態（BMI25以上）にある人が年々増加しています（表6、図10）。
- 若い女性においては、やせ状態（BMI18.5未満）にある人が15～19歳 25.5%、20代 21.7%、30代 13.9%（H28ひょうご栄養・食生活実態調査）となっています。過度なやせ状態は、妊娠出産における問題を引き起こす可能性が高いため改善の必要があります（図11）。

（表6）身体状況の年次推移（20～60歳代）

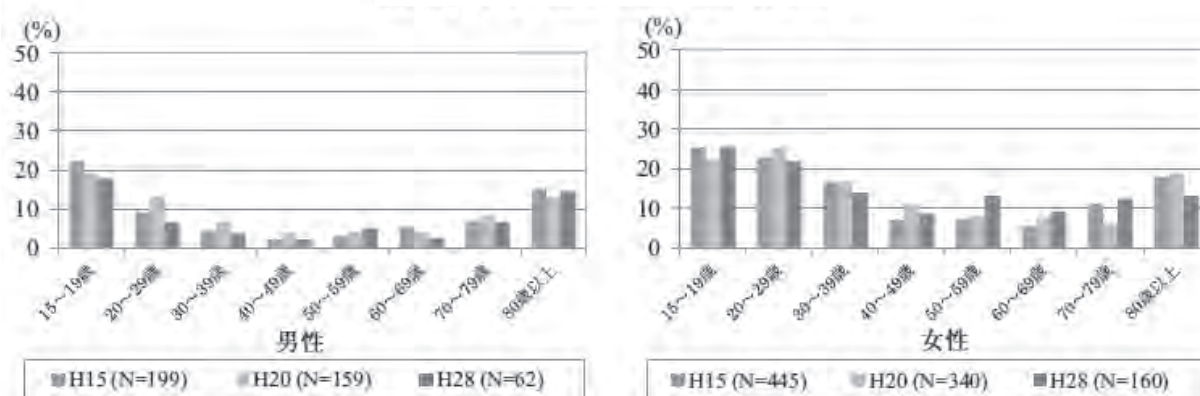
	男 性			女 性		
	H15 (N=2472)	H20 (N=1252)	H28 (N=745)	H15 (N=2925)	H20 (N=1564)	H28 (N=848)
やせ (BMI18.5未満)	4.4%	5.4%	3.4%	10.5%	12.3%	11.9%
適正 (BMI18.5～25未満)	72.3%	70.2%	67.6%	75.5%	74.4%	71.7%
肥満 (BMI25以上)	23.3%	24.4%	29.0%	14.0%	13.3%	16.4%

[兵庫県「H28ひょうご食生活実態調査」]

（図10）肥満（BMI25以上）の状況



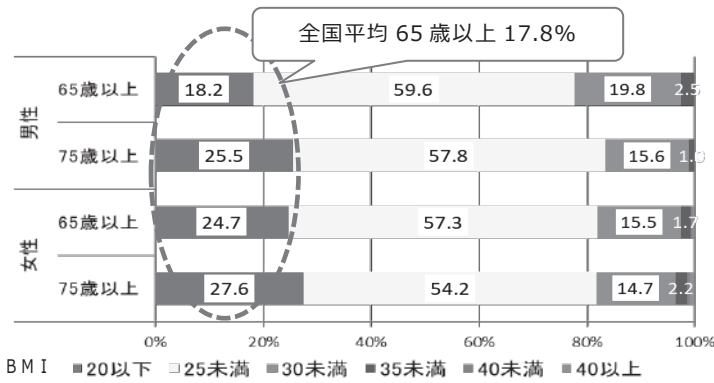
（図11）やせ（BMI18.5未満）の状況



資料：ひょうご食生活実態調査

- 低栄養傾向（BMI20以下）にある高齢者（65歳以上）の割合は、21.8%（H28ひょうご栄養・食生活実態調査）であり、全国値17.8を上回っています。今後、疾病や老化等の影響や、高齢者人口のうち75歳以上の高齢者の増加が見込まれることから、低栄養傾向の高齢者が増加することが予測されます（図12）。
- 70歳以上で「硬い物が食べにくい」、「口の渇き」、「むせ」、「しゃべりにくい」等の口腔機能低下を訴える方がいずれも約30%となっています（図13）。

(図 12) 65 歳以上の身体状況 (BMI)



(表 7) 歯・口腔の健康の状況

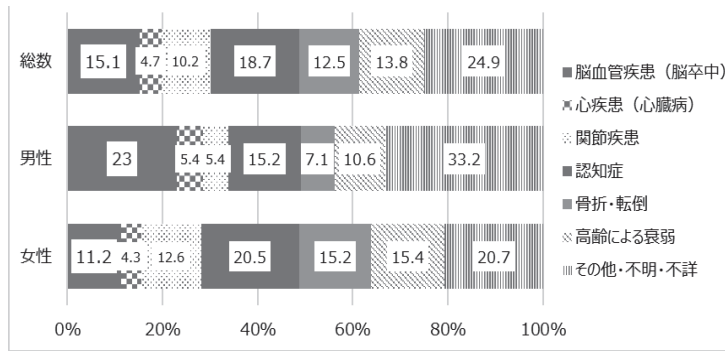
項目	男性			女性		
	60歳代	70歳代	80歳代	60歳代	70歳代	80歳代
硬い物が食べにくい	32.2%	31.2%	32.0%	24.2%	31.3%	41.0%
お茶等でむせる	16.4%	23.2%	29.8%	19.2%	25.6%	25.1%
口の渇き	25.2%	37.1%	28.3%	23.9%	30.8%	38.4%
しゃべりにくい	20.5%	28.3%	34.8%	20.3%	18.7%	28.2%

資料:兵庫県健康増進課「H28 ひょうご食生活実態調査・健康づくり実態調査」

○ 介護が必要になった要因は認知症や高齢による衰弱、関節疾患、骨折・転倒など加齢に伴う心身機能の脆弱(ぜいじゃく)化(フレイル)が5割を占めています(図 13)。

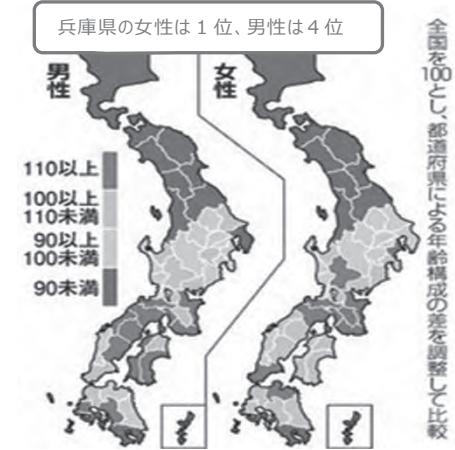
なかでも、本県は大腿骨近位部骨折の発生率が全国的にも高くなっています(図 14)。

(図 13) 65 歳以上の要介護者等の介護が必要となった主な原因



資料:厚生労働省「国民生活基礎調査」(平成 28 年)

(図 14) 大腿骨を骨折した 40 歳以上の割合

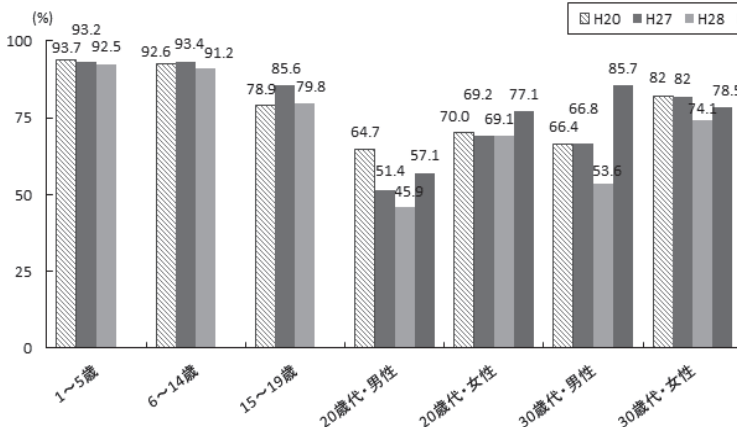


(大阪医科大学 玉置教授、骨粗鬆症財団実態調査 2015 年 NDB)

(2) 栄養・食生活の状況

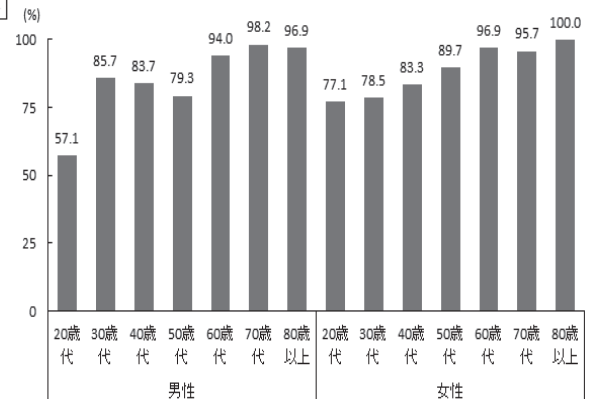
○ 朝食の摂取状況では、ほぼ毎日食べる人は 20 歳代男性で 57.1%、女性 77.1%にとどまっており、男女とも他の年代と比べ低くなっています(図 15)。

(図 15) 朝食をほぼ毎日食べている人の割合



資料:ひょうご食生活実態調査(H20)、県民意識調査(H27)、ひょうご食生活実態調査(H28)、県民モニター調査

朝食をほぼ毎日食べている人(性、年代別)

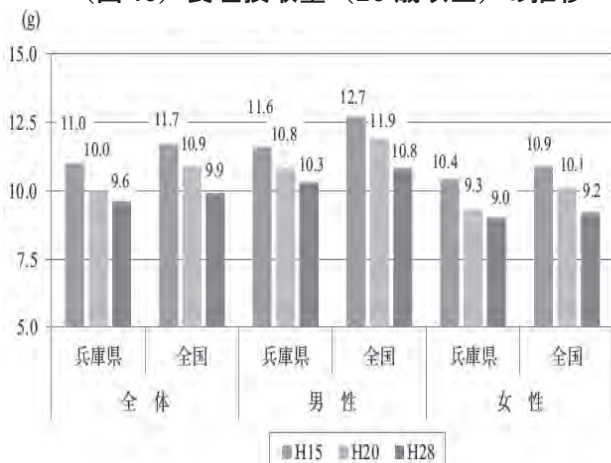


資料:県民モニター調査(R2)

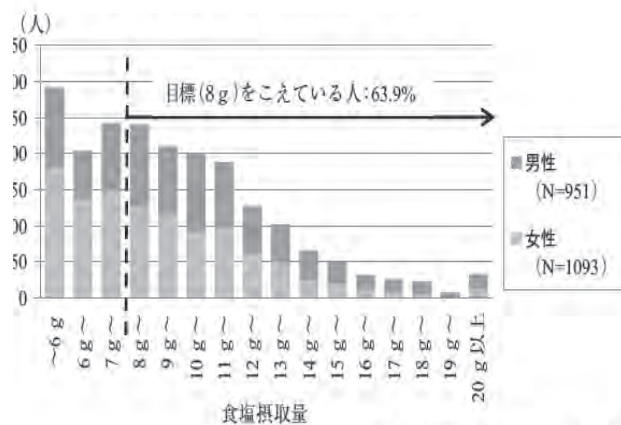
○ 食塩摂取量は、男性 10.8g、女性 9.2g であり、男女とも全国平均より少ないものの、兵庫県健康づくり推進実施計画で定める目標値 8.0g より多くなっています（図 16、図 17）。

また、野菜摂取量は、男性 286.0g、女性 266.3g であり、全国平均より少なく、目標値の 350g に達していません（図 18、図 19）。

（図 16）食塩摂取量（20 歳以上）の推移

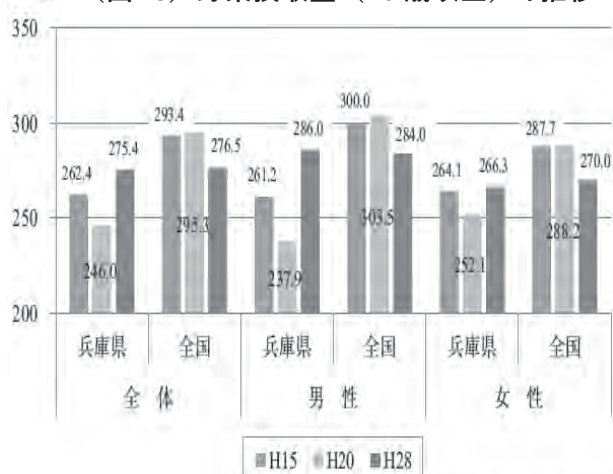


（図 17）食塩摂取量（20 歳以上）の分布



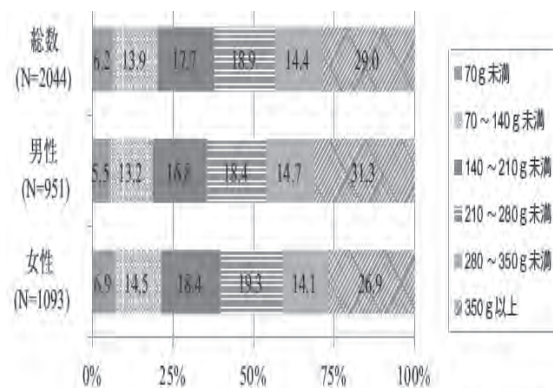
[兵庫県「H28ひょうご食生活実態調査」]

（図 18）野菜摂取量（20 歳以上）の推移



[全国「国民健康・栄養調査」、兵庫県「ひょうご食生活実態調査」]

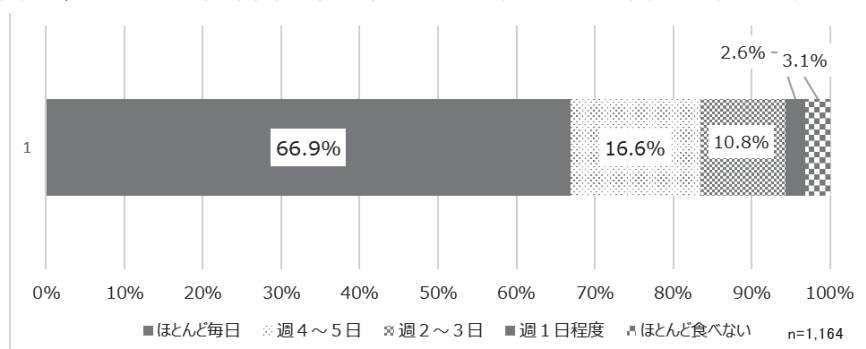
（図 19）野菜摂取量（20 歳以上）の分布



[兵庫県「H28ひょうご食生活実態調査」]

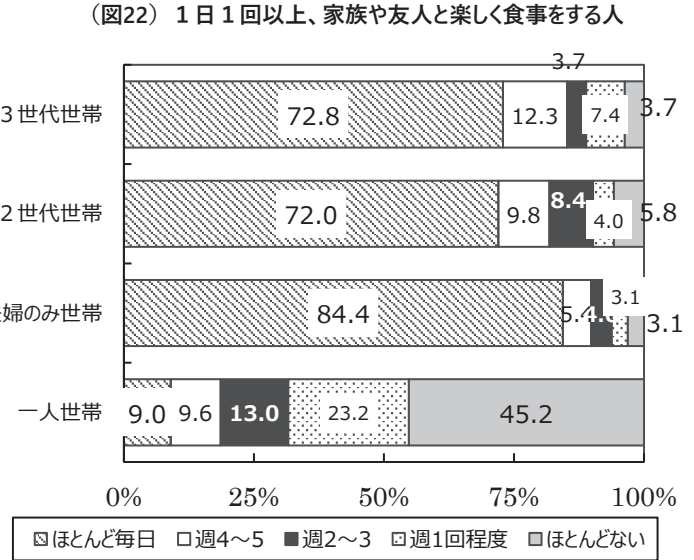
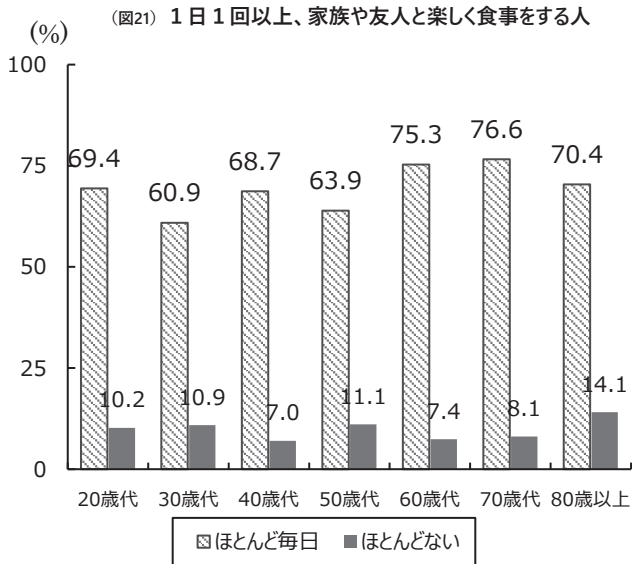
○ 栄養バランスに配慮した食事（1日2回以上、主食・主菜・副菜の3つを組み合わせる）について、1週間のうち「ほとんど毎日」食べている人は7割近くになっています(66.9%)（図20）。性・年代別では、男女ともおおむね年代が上がるともに「ほとんど毎日」が高くなっており、世帯構成別では、「ほとんど毎日」は、夫婦のみ世帯が75.2%と高くなっています。

（図 20）主食・主菜・副菜を組み合わせた食事を1日2回以上、ほぼ毎日食べている人



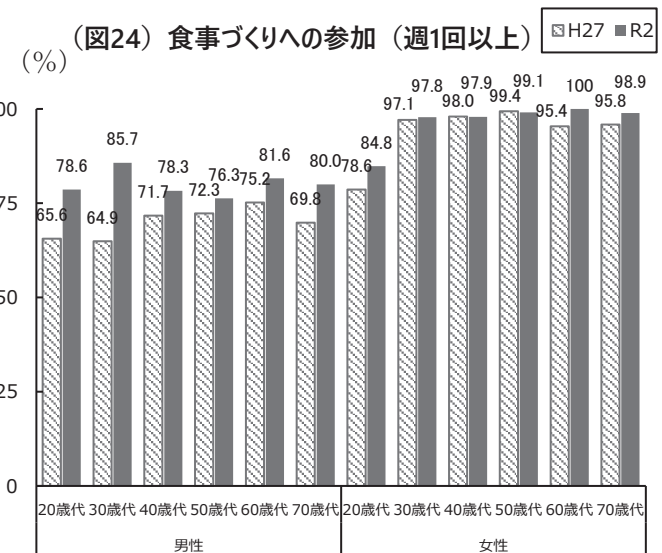
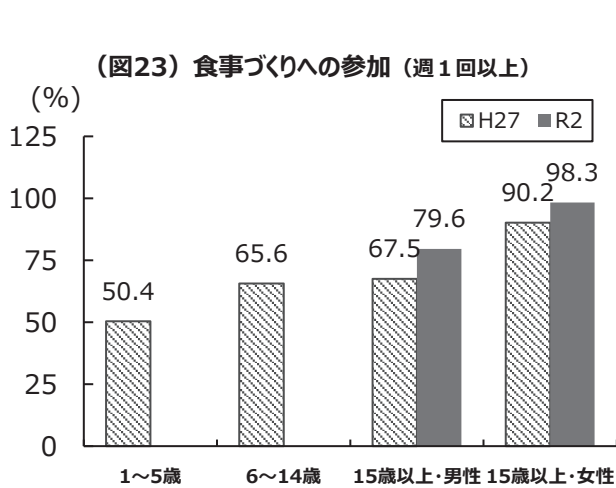
資料：県民モニター調査（R2）

- 共食の状況では、毎日、家族や友人と楽しく食事をする機会がある人は、「ほとんど毎日」が7割を超えています(70.4%)。年代別では、「ほとんど毎日」は60歳代、70歳代が高く、「ほとんどない」は80歳以上が高くなっています。世帯構成別では、夫婦のみ世帯の84.4%が「ほとんど毎日」、一人世帯の人は約半数(45.2%)が「ほとんどない」となっています(図21、図22)。



資料：県民モニター調査 (R2)

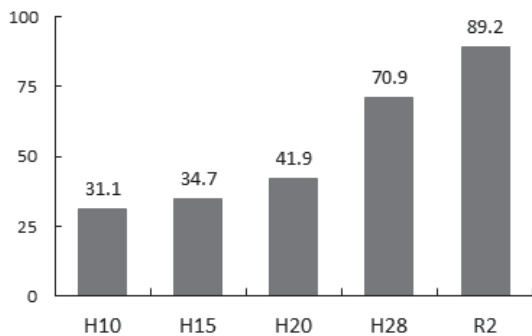
- 食事づくりへの参加 (週1回以上) では、男性 79.6%、女性 98.3%であり、特に男性の参加が増加しています。また、男女とも20歳代が他の年代と比べて低くなっています(図23,24)。



資料：県民意識調査 (H27)、県民モニター調査 (R2)

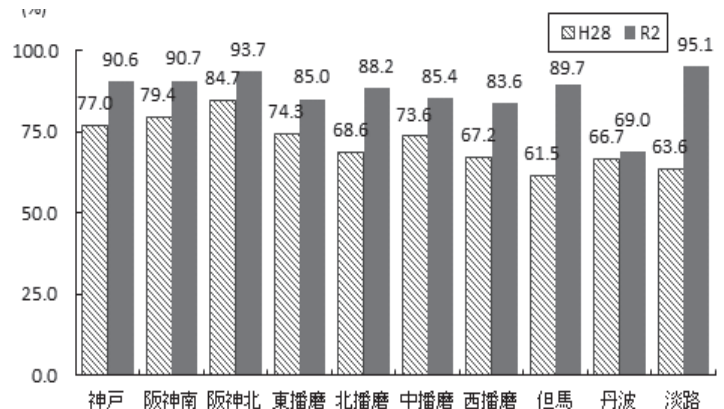
- 災害時の食の備えを用意している世帯は 89.2% であり、目標値（75%）を達成していません（図 25）。また、圏域別では淡路、神戸・阪神圏域で高くなっています（図 26）。

(図 25) 災害時の食の備えをしている世帯 (%)



資料：ひょうご食生活実態調査(H28)、県民モニター調査 (R2)

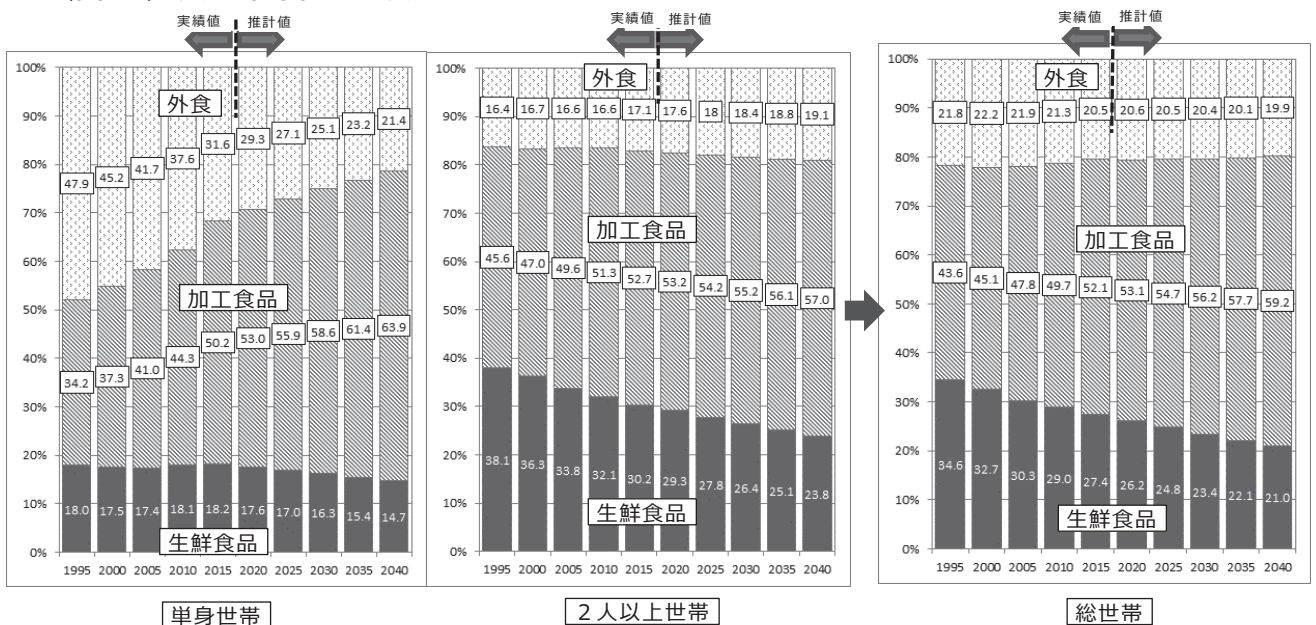
(図 26) 災害時の食の備えをしている世帯(圏域別)



- 我が国の食料消費の将来推計（2019年版、令和元年8月）によると、ライフスタイルの変化により、内食から中食への「食の外部化」が一層進展し、食料支出の構成割合が、生鮮食品から付加価値の高い加工食品にシフトすることが見込まれています。

生鮮食品の比率は、35%（1995〈H7〉年）→27%（2015〈H27〉年）→21%（2040〈R22〉年）と大幅な縮小が予測されるとともに、今後シェアが高まる単身世帯では、外食、生鮮食品からの転換により、加工食品のウェイトが著しく増大していくことが見込まれています（図27）。

(図 27) 食の外部化の進展



(出典) 我が国の食料消費の将来推計（2019年版）農林水産政策研究所（令和元年8月）

注1 2015年までは、家計調査、全国消費実態調査等により計算した実績値で、2020年以降は推計値

注2 生鮮食品は、米、生鮮魚介、生鮮肉、牛乳、卵、生鮮野菜、生鮮果物の合計、加工食品は生鮮食品と外食以外の品

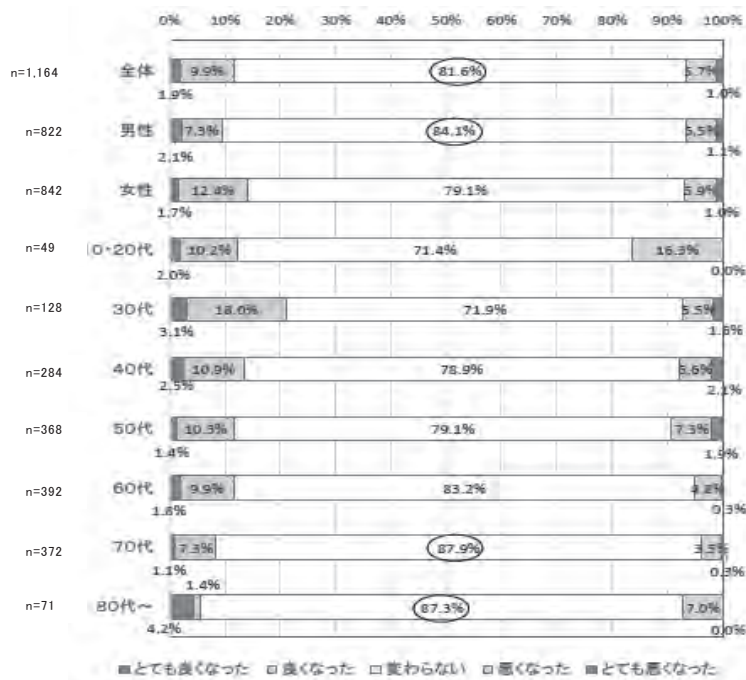
- マスメディアをはじめ、SNSの普及等により、健康や栄養などの様々な情報が氾濫し、また健康増進の効果をうたう食品も市場にあふれています。情報の受け手である県民が食に関する

信頼できる情報を適切に選別し、活用することが困難な状況も見受けられます。

(3) 新型コロナウイルス感染症による影響

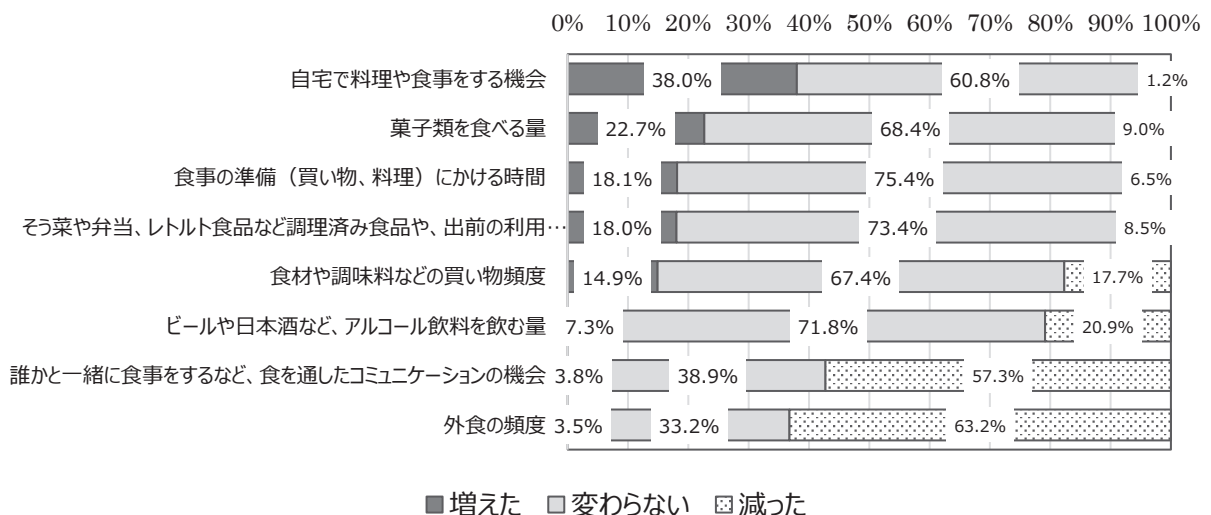
- コロナ禍における食生活の変化は「変わらない」が8割を超えており（81.6%）、性別では男性で、年代別では高齢者で「変わらない」が高くなっています（図28）。
- 新型コロナウイルスの感染拡大による現在の食生活の変化について、「自宅で食事等をする機会」が「増えた」が4割(38.0%)と最も多く、「食を通じたコミュニケーションの機会」(57.3%)や「外食の頻度」(63.2%)は「減った」が6割となっています（図29）。
- 「新しい生活様式」に対応した食育を推進するため、県に期待することは「簡単で栄養バランスが整った献立や調理方法の普及」が約5割と高くなっています(図30)。

(図 28) コロナ禍による食生活の変化 n=1,164

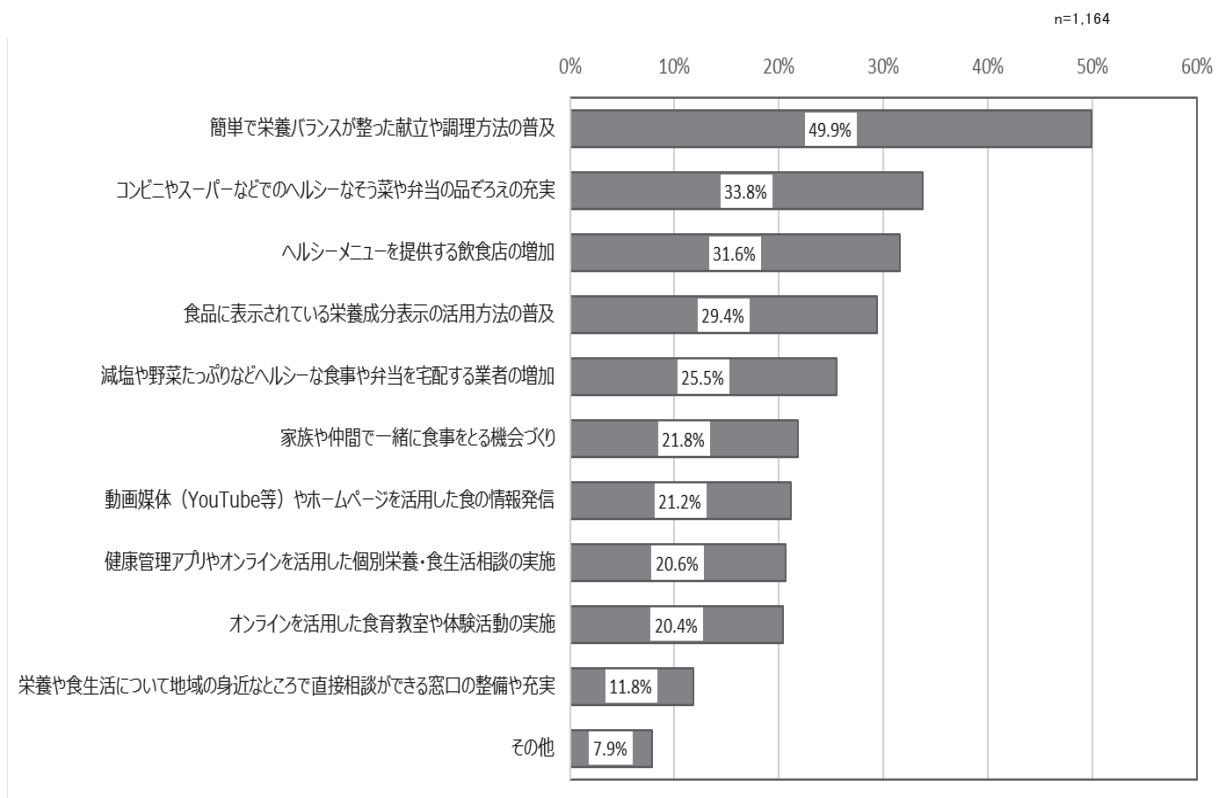


(図 29) 新型コロナウイルス感染拡大による現在の食生活

n=1,164



(図 30) 新しい生活様式に対応した食育推進に向け、県に期待すること

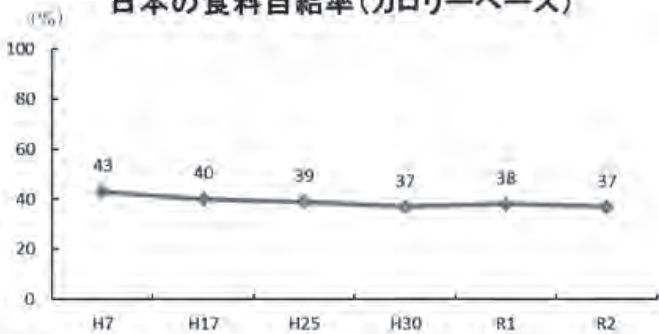


3 食料の生産と流通、伝統的な食文化

(1) 県産県消（地産地消）の進展

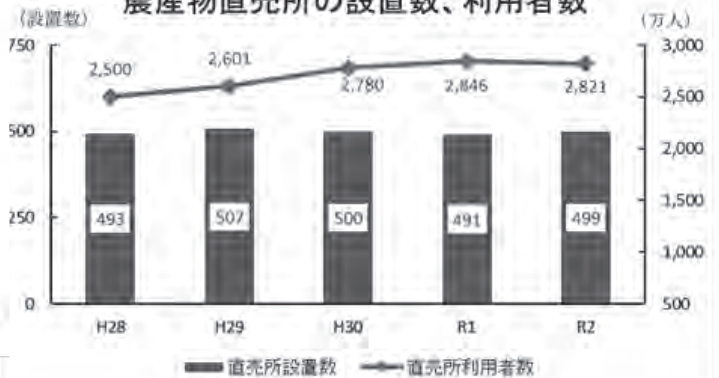
- 日本の食料自給率は年々低下しており、この 10 年はカロリーベースで 40%を下回る水準となっています（図 31）。
- 農産物直売所の設置数は令和 2 年度 499 カ所であり、平成 28 年度に比べ 6 ヶ所増加しています。また、農産物直売所の利用者数は、令和 2 年度は新型コロナウイルスの影響で少し減少したものの、年々増加傾向にあります（図 32）。
- 地元や県内でとれた農林水産物を買っている人の割合は令和 2 年度 66.4%であり、平成 28 年度に比べ 3.6 ポイント減少しています。圏域別では淡路 84.7%、但馬 76.5%、西播磨 74.7%の順に多くなっています（図 33、34）。
- 兵庫県認証食品の食品数は、認知度の高まりやニーズの拡大等により、平成 28 年度に比べ 1.16 倍増加しています。それに伴い県内で流通する県産生鮮物に占める認証食品の割合も順調に増加しています（図 35、36）。
- 学校給食での県産品使用割合は令和 2 年度で 28.4%であり、ほぼ横ばいで推移しています（表 8）。

(図 31) 日本の食料自給率(カロリーベース)

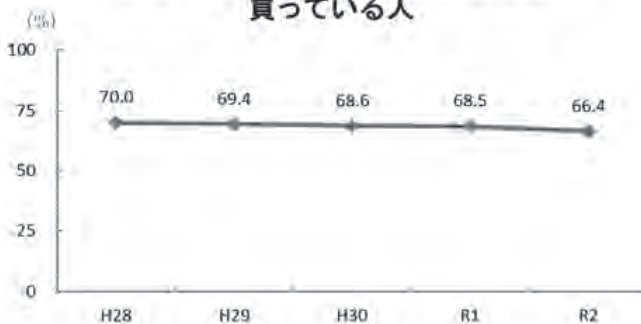


資料：農林水産省調べ

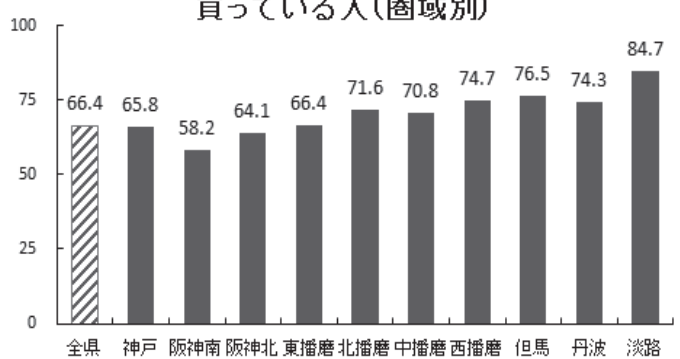
(図 32) 農産物直売所の設置数、利用者数



(図 33) 地元や県内でとれた農林水産物を買っている人

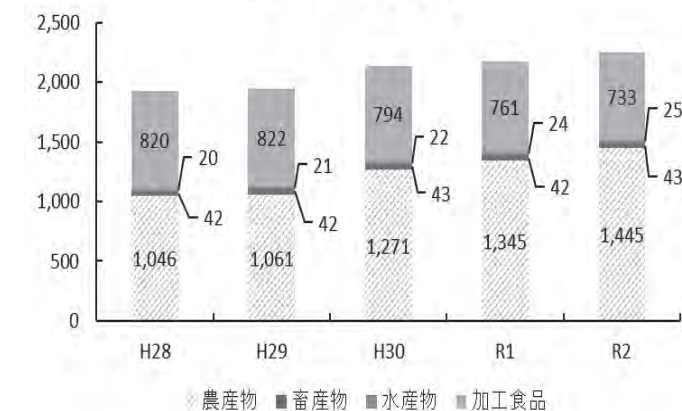


(図 34) 地元や県内でとれた農林水産物を買っている人(圏域別)

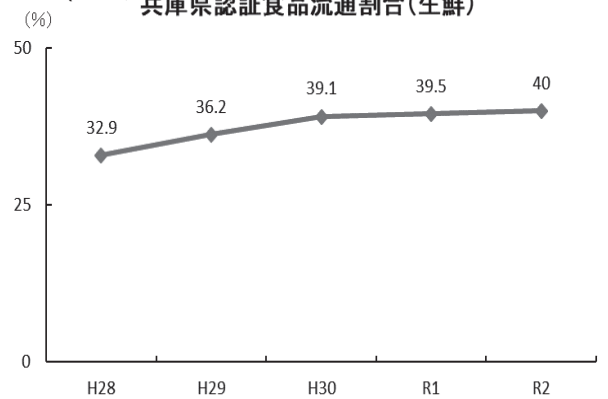


資料：「ひょうごのゆたかさ指標」県民意識調査 (R2)

(図 35) 兵庫県認証食品数



(図 36) 兵庫県認証食品流通割合(生鮮)



資料：兵庫県消費流通課調べ

(表 8) 学校給食での県産品使用割合

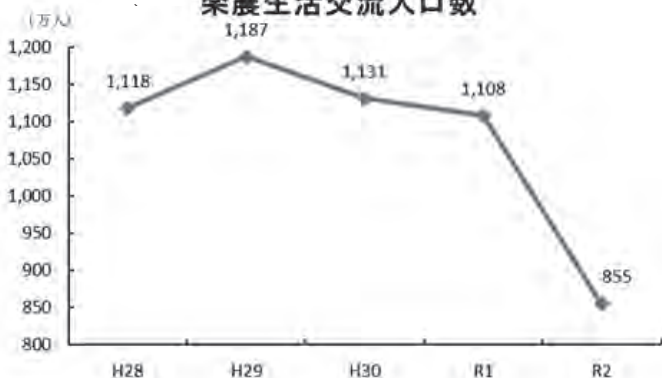
	H28	H29	H30	R1	R2
使用割合	29.2%	28.4%	28.4%	28.7%	28.4%

資料：兵庫県体育保健課調べ

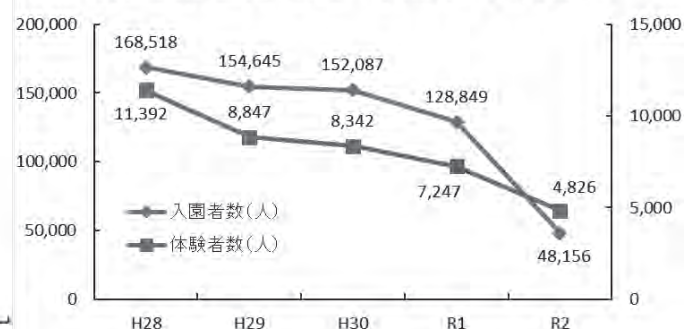
(2) 食と「農」に親しむ機会の増加

- 楽農生活交流人口（都市農村交流体験施設の利用者延べ数）は、目標値 1,160 万人に対し、令和 2 年度 855 万人となっています。これは、新型コロナウイルス感染症の影響による外出自粛が大きな要因となっています（図 37）。
- 楽農生活の拠点である「兵庫楽農生活センター」は、入園者数、体験者数ともに減少しています。新型コロナウイルス感染症の影響によるものと、開設から 15 年あまりが経過しており、体験メニューの新規性が徐々に失われていることなどが要因と考えられます（図 38）。

(図 37) 楽農生活交流人口数



(図 38) 兵庫楽農生活センター入園者・体験者数



資料：兵庫県楽農生活室調べ

(3) 食品ロスの削減

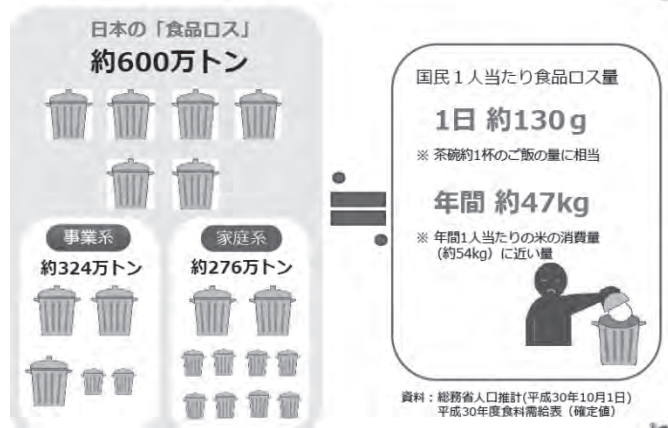
まだ食べられるにも関わらず廃棄される食品ロスは、食品の生産から販売、消費等の各段階で大量に発生しており、SDGsにも言及されるなど、その削減が国際的な課題となっています。

国内でも年間 600 万トン以上の食品廃棄物が発生しており、食品ロスを削減することは、食品の生産や廃棄処理に係るエネルギーや二酸化炭素排出の抑制など、地球環境の保全に大きく貢献するものです（図 39）。

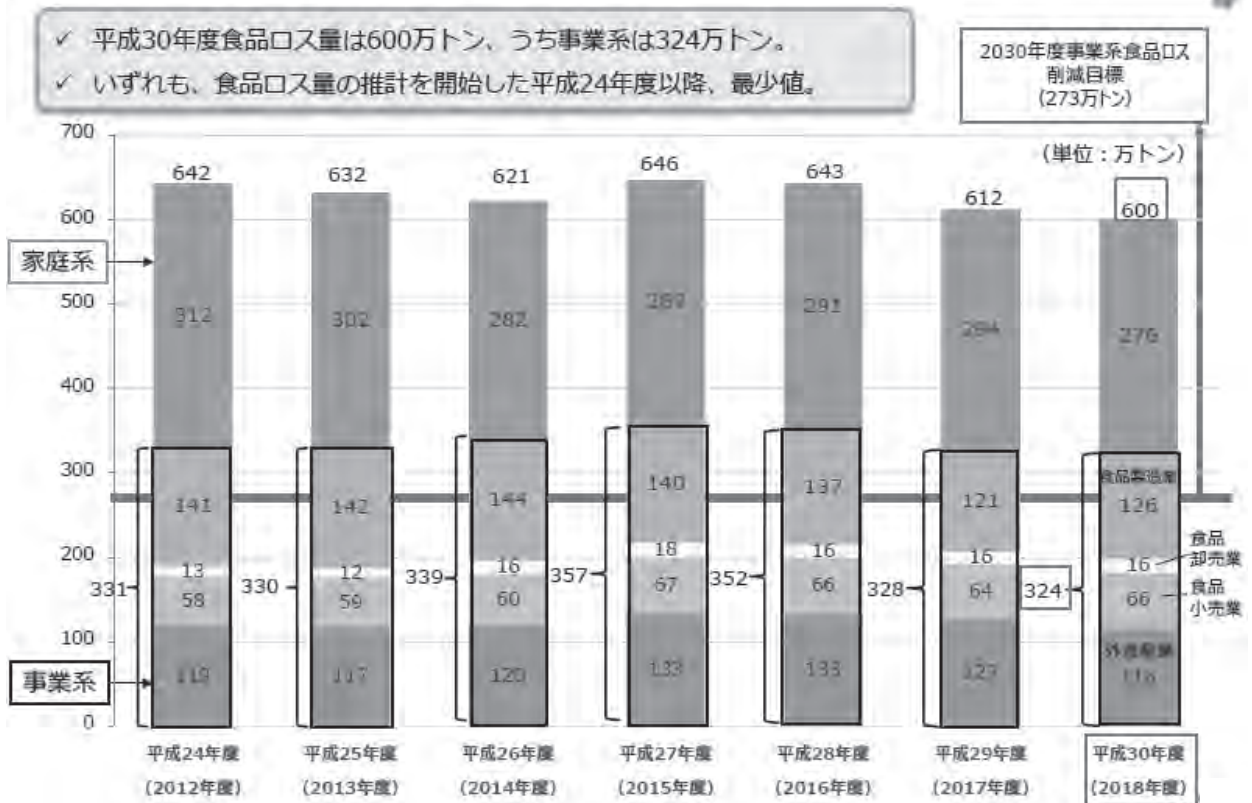
(図 39) 日本の食品ロスの状況（平成30年度）

一方、食料自給率は 37%（H30 加減）で、多くの食料を輸入に依存している現状があります。

県・市町、事業者、消費者等が連携しながら、食品ロス削減に向けた取り組みを行う必要があります。



(参考) 食品ロス量の推移（平成24～30年度）



資料：農林水産省外食・食文化課食品ロス・リサイクル対策室（令和3年8月）

(4) 食文化の継承と創造

- 本県は「日本の縮図」とも言われるように、北は日本海、南は瀬戸内海に面し、多様な自然環境を有しています。また、歴史的に形成された摂津、播磨、但馬、丹波、淡路の五つの国（地域）の気候・風土に根ざした農林水産業が営まれています。
- 生産量で全国順位の上位を占める農林水産物が多く、主なものとして、農産物では、山田錦（酒米）（1位）、丹波黒（黒大豆）（1位）、たまねぎ（3位）、いちじく（3位）、水産物では、ホタルイカ（1位）、ズワイガニ（2位）等があります（表9）。
また、神戸ビーフ、明石鯛等は、全国的にも有名なブランドとして知られています。

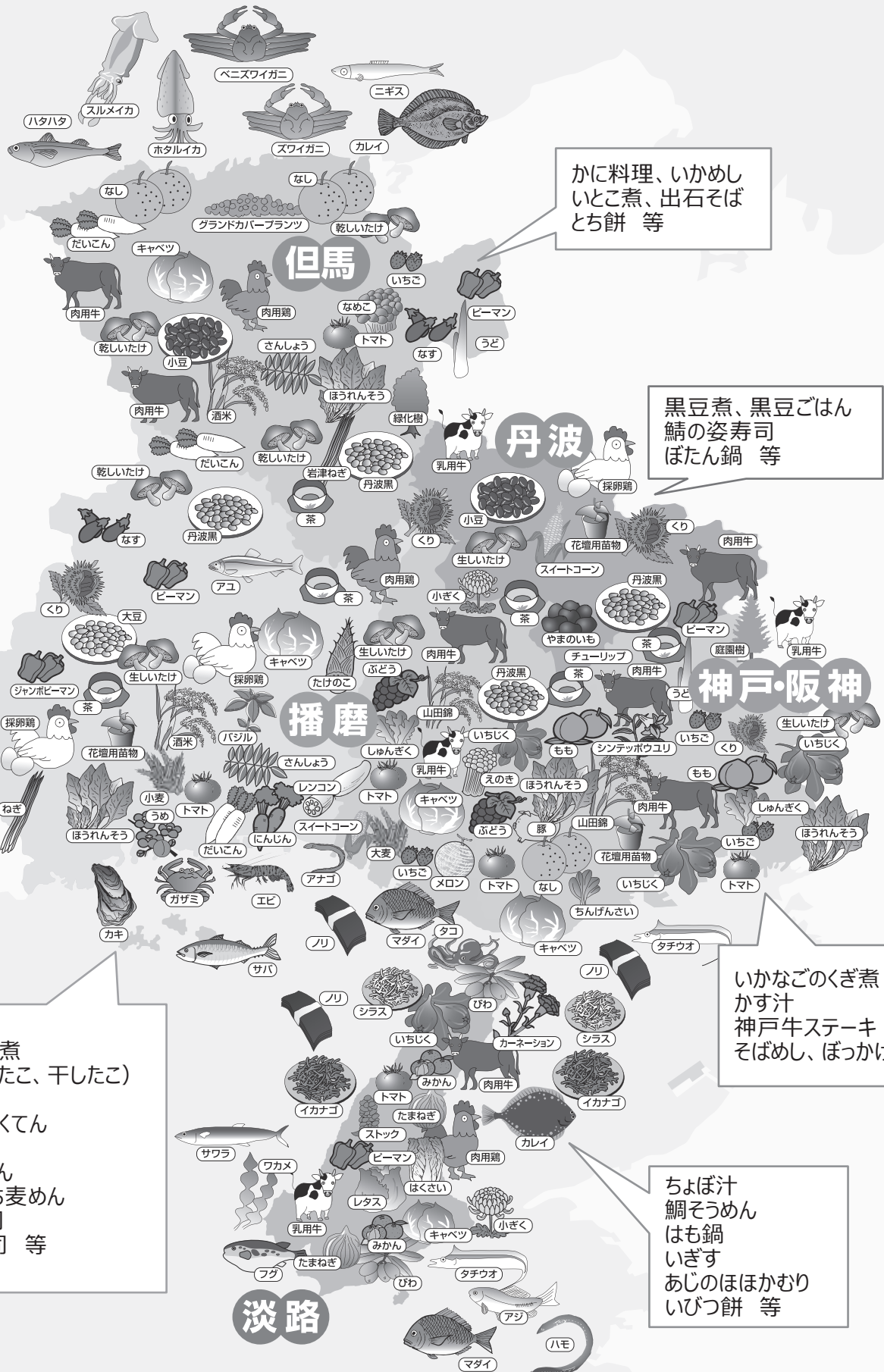
(表9)

【全国上位を占める主な農林水産物】

項 目		生産量等	全国シェア	全国順位	県内の主な産地	備 考（資料）
米	山田錦[酒米](出荷量)	20,439 t	59.3%	1	播磨地域	農林水産省「令和元年産米の農産物検査結果(速報値)」※山田錦出荷量は検査数量へ入
豆	丹波黒[黒大豆](収穫量)	890 t	39.5%	1	丹波・播磨地域	県農産園芸課調べ（令和元年）
野菜	たまねぎ（収穫量）	100,100 t	7.6%	3	淡路地域	農林水産省「令和元年産野菜生産出荷統計」
	レタス（収穫量）	30,100 t	5.2%	5	淡路地域	〃
	しゅんぎく（収穫量）	1,410 t	5.2%	6	神戸・阪神地域	〃
	はくさい（収穫量）	21,100 t	2.4%	10	淡路地域	〃
	キャベツ（収穫量）	29,300 t	2.0%	11	淡路・神戸地域	〃
果実	いちじく（収穫量）	1,590 t	12.3%	3	神戸・阪神地域	県農産園芸課調べ（平成29年）
	びわ（収穫量）	183 t	5.3%	6	淡路地域	農林水産省「令和元年産果樹生産出荷統計」
	くり（収穫量）	364 t	2.3%	10	丹波・阪神地域	〃
花き	かネツヨ（出荷量）	19,400 千本	8.7%	4	淡路地域	農林水産省「令和元年産花き生産出荷統計」
	花壇用苗もの類(出荷量)	27,100 千本	4.7%	4	神戸・播磨地域	〃
畜産物	生乳(生産量)	78,054 t	1.1%	14	淡路・播磨地域	農林水産省「令和元年牛乳乳製品統計」
	肉用牛(飼養頭数)	55,700 頭	2.2%	10	淡路・播磨・但馬地域	農林水産省「令和2年畜産統計」
	鶏卵(生産量)	88,611 t	3.4%	11	播磨地域	農林水産省「令和元年畜産物流通統計」
	ブロイラー(出荷羽数)	12,760 千羽	1.8%	12	但馬地域	農林水産省「平成31年畜産統計」
	はちみつ(生産量)	75,863 kg	2.6%	14	播磨・阪神地域	農林水産省畜産振興課調べ（令和元年）
水産物	シラス(漁獲量)	14,505 t	24.2%	1	瀬戸内海	農林水産省「令和元年漁業・養殖業生産統計」
	イカナゴ(漁獲量)	1,025 t	9.0%	3	瀬戸内海	〃
	ノリ養殖(収穫量)	53,093 t	21.1%	2	瀬戸内海	〃
	ズワイガニ(漁獲量)	791 t	22.5%	2	日本海	〃
	ハタハタ(漁獲量)	1,206 t	22.5%	2	日本海	〃
	ホタルイカ(漁獲量)	3,377 t	57.6%	1	日本海	県水産課調べ（令和元年）
	タコ類(漁獲量)	1,283 t	3.6%	2	瀬戸内海	農林水産省「令和元年漁業・養殖業生産統計」
	カレイ類(漁獲量)	1,847 t	4.5%	4	日本海・瀬戸内海	〃
	ヘビシワカニ(漁獲量)	1,908 t	14.4%	4	日本海	〃
	マダイ(漁獲量)	1,337 t	8.4%	4	瀬戸内海	〃
	カキ(漁獲量)	7,361 t	4.6%	4	瀬戸内海	〃

資料：「ひょうごの農2021」抜粋

多彩なひょうごの農林水産物マップ



かに料理、いかめし
いとこ煮、出石そば
とち餅 等

黒豆煮、黒豆ごはん
鯖の姿寿司
ぼたん鍋 等

神戸・阪神

播磨

淡路

いかなごぎ煮
たこ飯（生たこ、干したこ）
明石焼き
かつめし、にくてん
姫路おでん
ホルモンうどん
バチ汁、もち麦めん
鯖の姿寿司
このしろ寿司 等

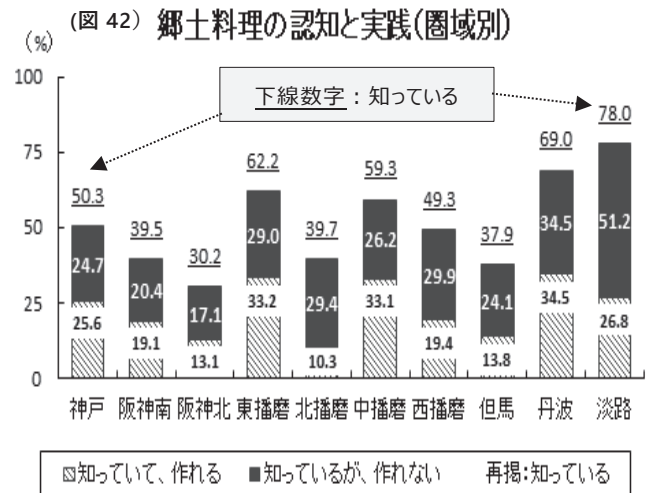
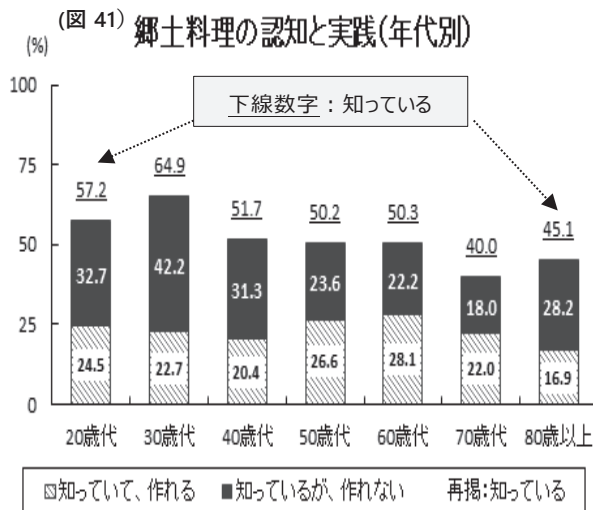
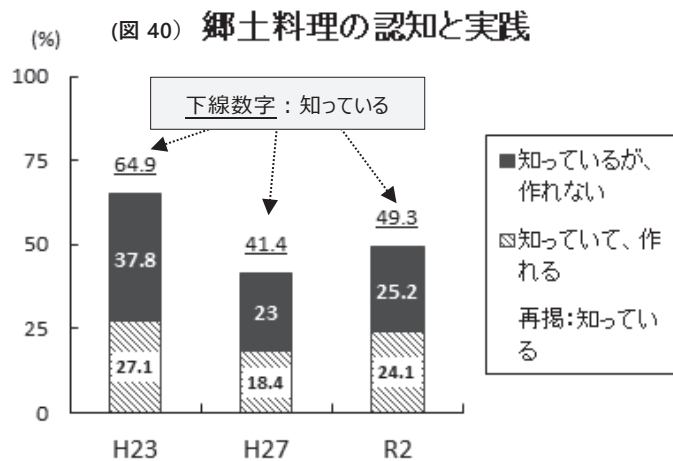
いかなごのきぎ煮
かす汁
神戸牛ステーキ
そばめし、ぼっかけ 等

ちょぼ汁
鯛そうめん
はも鍋
いぎす
あじのほほかむり
いびつ餅 等

- 郷土料理の認知と実践状況では、地域の郷土料理を知っていて、作れる人は 24.1%、知っている人（知っていて、作れる+知っているが、作れない）は 49.3%でした（図 40）。

第 3 次計画策定時（H27）と比較して認知と実践状況は高くなっていますが、第 2 次計画策定時（H23）の現状値には至っていません。

郷土料理を知っている人（知っていて作れる+知っているが作れない）については、30 代 64.9%、20 代 57.2%の順に高く、圏域別では、淡路 78.0%、丹波 69.0%の順に高くなっています（図 41、42）。

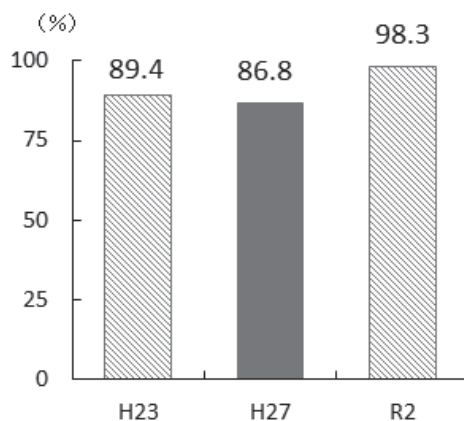


4 食育活動の連携強化、体制整備

(1) 食育への関心と実践

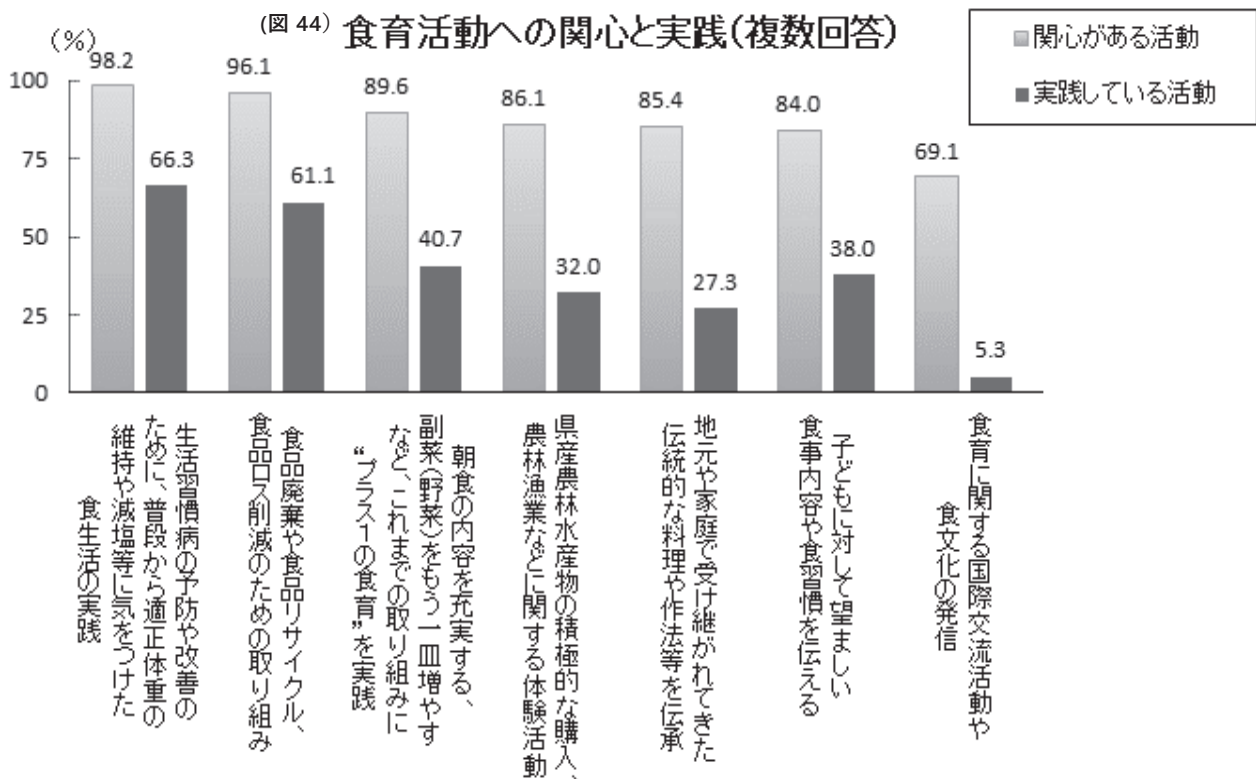
- 食育に関心のある人は 98.3%と目標値である 90%を達成しています（図 43）。
- 関心がある食育活動、実践している食育活動とも、生活習慣病予防や改善等の健康づくり、食品ロス削減、プラス 1 の食育実践、県産農林水産物の活用の順となっています。
 なお、関心と実践に差があり、関心があっても実践できていないことがうかがえます（図 44）。

(図 43) 食育に関心のある人



資料：兵庫県県民モニター調査
(H23,R2)
県民意識調査 (H27)

(図 44) 食育活動への関心と実践(複数回答)

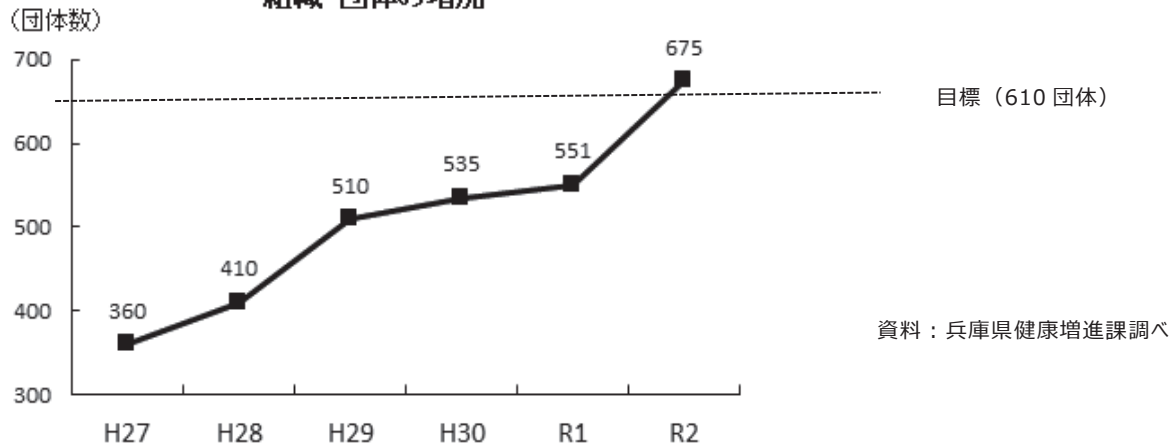


資料：県民モニター調査 (R 2)

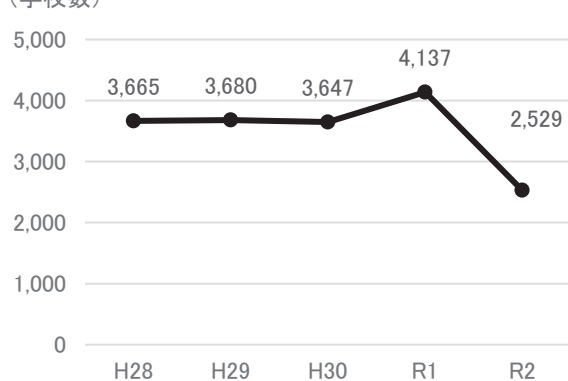
(2) 食育活動の充実、連携強化

- 地域と連携した食育活動に取り組む組織・団体数は 675 団体と目標値 610 団体を上回っています（図 45）。
- 学校における食育の推進では、食に関する指導において体験活動（栽培活動等）を実施する学校数は令和元年度で 4,466 校、家庭・地域と連携した取り組みを行った学校数は 4,137 校となっており着実に増加しています（図 46、47）。（令和 2 年度については、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、減少しています。）
- ひょうご食育月間（10 月）での普及啓発事業や各種県民運動への参加者数は年度により増減はあるものの毎年多くの参加があります（表 10）。
- 全 41 市町で食育推進計画が策定され、より住民に身近な市町で食育推進体制が整備され、食育活動の場も増える等、県民の食育活動を支える体制が充実しました（表 11,12）。

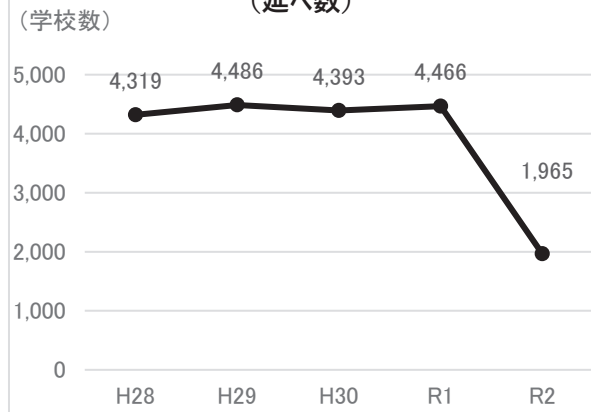
（図 45） 地域と連携した食育活動に取り組む
組織・団体の増加



（図 46） 家庭・地域と連携した取組を
行った学校数（延べ数）



（図 47） 食に関する指導において体験活動
（栽培活動など）を実施する学校数
（延べ数）



資料：兵庫県体育保健課調べ

(表 10) ひょうご食育月間（10月）や各種県民運動への参加者延べ数

	H29	H30	R1	R2
ひょうご食育月間（10月）参加者数（千人）	1,848	3,224	2,290	2,432
ひょうご“食の健康”運動 調理体験活動等への実践活動（回数）	2,975	3,525	3,352	1,461
食の健康リーダー数（人）	1,025	971	956	910
おいしいごはんを食べよう県民運動（千人）	1,147	1,138	1,076	1,003

資料：兵庫県健康増進課、楽農生活室調べ

(表 11) 市町計画策定状況（令和3年9月末現在）

	市町数
第1次計画	3市町
第2次計画	26市町
第3次計画	11市町
第4次計画	1市
累計	41市町（100%）

資料：兵庫県健康増進課調べ

(表 12) 市町食育推進計画における指標の傾向

主な指標	指標設定 市町数	県計画		国計画	
		3次	4次	3次	4次
朝食を食べる人の割合の増加	35	○	○	○	○
主食・主菜・副菜を組み合わせた食事を1日2回以上、ほぼ毎日食べている人の増加	19	○	○	○	○
毎日、家族や友人と楽しく食事をする人の割合の増加	27	○	△	○	○
ゆっくりよく噛んで食べる人の割合の増加	10	-	-	○	○
災害に備え、非常用食料等を備蓄している世帯の割合の増加	17	○	○	-	-
食品ロス削減のために何らかの行動をしている人の割合の増加	12	-	○	○	○
地域の行事食、郷土料理を知っている人、作ることができる人の割合の増加	21	○	○	△	△
食品の安全性への理解を深めることに取り組む人の増加	7	-	○	○	○
食育に関心のある人の割合の増加	30	○	-	○	○

資料：兵庫県健康増進課調べ（市町食育推進計画記載内容確認：類似指標を含む、県4次は予定）